# 主従心得草三編

上

ロ 9
4087
1

門 ロ9
號 4087
参 1

加州橋立

自序

○心學の道ゐ入者ハ家内の和合ハ勿論。一家親類とも中よく暮し。人交りをゐく致し。邪まゐる人ゐなふことなくそゝるべ。且又産業を怠らぢ足事をゐり　御代の恩沢をゐり　御法度を大切ゐ守り。唯今日の無事を樂ミ。世を安心ゐ送るの教へ也。智者学者ハ兎もあれ。家業ゐひまゐき人ハ此道ゐゐゐるべしていよゐき所ハ通りがをし。心学ゐ大利益ある事を知て人〻學びゐゐべし

○此本の所〻ゐ御政事を批判ゐるゆゐの事あをとも中〻左様の事ゐあゐも。大家小家共ゐ主従の心得を論ぜる時を

家々の政事法度おきべ。何と彼〳〵御政事の事れやうふかゝるあり。又古語を引て主従の心得を論ずる事あるをば御政事の支もあるべし。いづれも主従の善悪をいふ事あるを家を齊へ國をおさむるの評判せんばうがたし。夫故りを是非あ〳〵御政事の支を引て善悪をゝくる事あり。何をいふを唯主従の心得を申ス迫の事あれば。よむ人心得違あきやうみを愚し。此草紙ハ家業ひまあき人の為又四角ある文字のよめがたき人の為ふるも

○弘化三午年十月　御免　同四年未正月出板




一智者の善人を用ひて愚者を用ゆるとあらをとといふ事　初丁
一富歳ハ頼ミ多し。凶年ハ暴多しの事　二丁
一古への奉行人ハ先我身をよくいましめて。人を治むる事　七丁
一名將ハ功ある者を賞して已をハ權威ばりを取事　九丁
一上へ向ひて唾偽りをいふ者ハ下へ向ひて慈悲あき事　十丁
一延喜帝菅亟相ハ人を賞もるの道を問ふ事　同丁
一國家を治むるの大事ハ賞罰の二ツふありといふ事　十三丁
一音砥左衛門ガ坪の内へ銭三百貫文投込ありし事　十四丁
一孔子の訴へを聞事吾猶人のごとしの事　十六丁

一 小僧三ヶ條の事　九丁
一 けんくゎ口論ハ両方の理非をよく聞糺せとゝふ事　九三丁
一 主君一人の賢智ゞ大入用とゝふ事　九九丁
一 手島先生の前訓並無欲清淨の事　三十四丁
一 百衆の家ゝハ忠りもとんの臣を養ひもとゝふ事　三十七丁
一 一切の悪事ハ欲の一ツの変化遠島死罪の根本とゝふ事　四十二丁
一 仁ハ人の安宅義ハ人の正路とゝふ事　四十五丁

# 主従心得草三編上

○前編ゟもりゟ通り。上ゟ立人の一大事大入用とゝふを智者の善人を知て挙用ひ。悪人を遠ざけるハ上ゟ立人の職分也。実智の人を用ゆるを。國家ハ苦労ゝ少ゝよく治まりて万民ハ安泰也。善人を用ひて善政を行ふゟいづるの民ゟ治まらざらん。若悪人を用ゆるを悪事をゝりおこりて万民のゝんぎいちん方ゝ万民のゝんぎゞ頓て主人のゝんぎとゝる也。是ゟよゟ智仁勇ゝる人を用ひて善政を行ふ事。天下國家を治むるとゝふハ。万民をよく養ふ事也。一軒の主を妻子けんぞくをよく養ふ事。

よく養あハざるべし。世の中ハよく治りがたし。百万石の治むるも一軒の家を治むると同じ事也。何をもつて。上か立人くハ下々をよく養ふより外ハなく候。是ハ世をくらもの一大事かして。治國平天下の根本也。其外ハ皆枝葉あり。上下共ハ。身分相應ハ暮しが出来ざるべし。家くハ騒動なを上下の礼儀も整ひがたし。礼儀整ざるバ乱法狼籍也。國家ハ滅亡ものゝ。此故ハ智徳ある人を用ひて。万民をよく養あハざるべし。善心を失ひて悪事をたくみ人をそこなふ事多し。人をそこなふ事あるバ。治國平天下といひがたし。こゝをおもひ〳〵万民の暮しの出来るやうかをべし。

恒の産なけれバ恒の心なし。常の心なけれバつかれ多る馬のむちを恐れざるがごとし。かゝる人ハ心ふかくなし。世の中を治まりがたし。とゝのへて政事法度をわどよく致し。万民のくらしの出来るやうをゝ。暮しさへ出来れバ礼義もとゝのひて。悪事もせぬ者あり

○孟子のいへ〳〵富歳ハ子弟頼こ多し凶歳ハ子弟暴多しとあり。此心ハ富歳とハ豊年の事あり。豊年ハ衣食ハ沢山ハ有る故ハ。親子兄弟もとゝのひて心も質直ハして。善をあし悪をせざる也。又凶年ハ衣食ハ不足故ハ。何とあし心ハ邪見ハあり。

禮
義
射

御
いづれも君子の藝道なれども
出相きわめてまれなるべし天祿
を得あふべし
學
筭

親子兄弟の志さしも薄く。礼義もとのひがたし。又暴虐を作す者多し。人ハ本より善心あるを共。あんきうかせめらるきて本心を失ひ。悪を作す者多し。是ハより衣食小遣さへあて衣食小遣ひのあるゆうかもべし。衣食小遣さへあるをだにのまり悪事ハせぬ者也。此故ハ聖人天下を治め給ふ時ハ。年貢を薄く取りて民を富ましめ。其上ハ礼義人道を教へ給ふ。是よりて民皆仁義礼の道をしるなり。礼義ハ有ハ成てあきなはれいを。恒の産なけれを恒の心なしとハ此事也。手短くいへば。飯米小遣ハあくてハ世界ハくらゆくなり。家業を出精し。苦労をしるるも。飯米小遣ひを調へんがためなり。是ハ本源誠の噺しなり。一切の勤めをたらきへ。皆此所へ落とむなり。是ハよりて人々家々の政事治め方をよく致し。上下共ハ倹約を守り身分相應ハ飯米小遣のなるゆうなすべし。作者の口くせと思ふ屋うらべ。要中の要ハして國家を治むるの根本也。恒の産なけれを。常の心なしの聖語又鍋の尻のかうしやくハて。よくさとるべし。哥ハ○

あきこれの礼義遊山もなる故ぞ。くひ物あくべ。息の根も出ん

○冥加訓めいをく。天下を持ち國をたもちて。苦労する

も畢竟飲食を以て口を養ひ衣服を身をまとひ安ちん
が為也。士農工商皆同じ。王公大人の腹とても。大きさをの
らぬ。上下尊卑といふは。身の分限をくとそのまゝ。裸をして
見た時は。五体は毛頭かゝる事なし。唯少〻色の白くし
て。けだうき迚のたがひありとあり。ふらぬ大小上下の違
ひあると共。其本源は飲食衣服を求るはあり。是がおけま
で身心を安樂はして善をおさめる事のごとくまで。此故は飲米
小遣ひのいるやうはをべし。是身心安穏はして。仁義礼智
信を行ふの本也。孔子も先万民を富しめて。其上はくく禮
義を教べしと仰せらきたり。是はくよくく考へ爲べし。

此本は詖辞淫辞邪辞文字相違の所は御免ある爲し。詖
辞はゆきつまりたるこゝろ。淫辞はみだりは取ちまりは
きこゝろ。邪辞はよこしまはひがくたる言葉あり

○平家物語はいはく。古へ聖人の御代の奉行人は家来より
先我身を深〻禁めくり。外々の者よりも先吾家人を罰を。
此故は其家よくく治りて。公事は私〻〻。公事は私なき
時は。其法よくく立。其法よくく立時は改事正〻〻政事正〻き時
は天下恭平也。アアかなし。末世に至てはうの心得をちる
人も希なり。唯利欲才覚なる人をよき人と心得て。夫は奉行
職を授けくく改事をおさくむ。その官卑ちくして。其禄少な

けき共。其役かあるをもつて其者かゑこと。あらぬ公事かゑ私〳〵にして。其政事かならず正〳〵かゝず。政事正しかゝざる時ハ。下の悲歎やまず。一度非政を出せば。天下皆くらやみとなる。何を以て万機を治めん。智仁勇ある臣下を用ひて真直なる政事を致すべし。若不直のたゝひあらば。家来ハ勿論。主君も國家を失ふべし。かるゆゑ恭時の政事をとり行ひおこなひ〳〵時ハ。正直正路の大道を行ひおこなひ〳〵故ゆ。万事上の仰せをよく〳〵用ひて世上自然と静かにして世の訴も少なきあり。此故か人〳〵善政を行ひて國家を太平のもとゐ〳〵なり。是ゆ相違なの〳〵奉行職都〳〵人の上か立人〳〵ハ。先我身を第一かよく〳〵正〳〵致し。其次ゆ家来けんぞ〳〵の無理非道をひどくいま〳〵むべし。主人の威をかり主人よかゝ〳〵てよく悪事をもる者也。此事を心かけ〳〵家来けんぞ〳〵か非道かきやうかもべし。若家来けんぞ〳〵か無理非道かあるハ。是即ち主人の越度とする。此故か家来けんぞ〳〵の悪事をひどく罰もべし。其後民の政事を取行なくば。万民ハ御上の御法度抜よく守りて自然と國家安泰なるべし

○和論語か源の勝元のいもく。天下を治むる人ハ万民の罪を憎みて誅せんよりハ。已まが悪心悪行を切べし。已まハ恣めゝて。万民をいまゝめゝり共。罪人ハ弥〳〵多くるべし。君ハ体なり。

万民ハ影なり。体正しからざる時ハ影直からぬ筈なりと。又同書に源の氏綱のいはく。良将ハ已れが罪をせめて。人の罪をせめず。國家の治乱ハ我よりなり。民の心のなるまゝ。已れ正しからむとして。民を罪するハたとへむ。木の根をたちて。枝葉のあがらん事を願ふがごとし。無智といふべしとなり此二段の和論語をよくありて。人の上に立人ハ。先我身我心を正しくして。其後万民の罪をせむべし。己れ正しからざるして。民をせむるハ体ながくして影の直なるを求るがごとし。あるべからぬ事也。先己れが悪心悪行をやめて。其のち万民を正すべし。令せざるして万民ハ善心善行あるべし。國家の治乱ハ上たる人の善悪よりなりて。民のなる所のなるまゝ。孟子に



いはく。君仁なれバ民仁あらざる事なし。君義あれば民義あらざる事なし。又論語にいはく其身正しければ令せざるして行はれ。其身正しからざれば令すとして共行はれざるなり。爰を以てよくあるべし。此文段を上に立人ハ急度心得て。我身我心を正しくあるべし。下に臨む人ハ令せざるして民よくなるべし。令せざるして民よくなり。罰せざるして民よく恐れ慎むべし。主君たる者此儀をよく心得べし。此令せざるして民よくなるべし。罰せざるして民よく恐るゝの上にの治め方秘事口傳をよくあるべし。又ひどく令せて民を治め。ひどく罰して民を恐れしむハ。愚人のなる所なりあるべし。頓て乱を招くの兆しなり。又過ちを引出して已れが家

身を失ふ人あり

○平家物語ものがたりに。名将ハたとへ敵國を攻取とり共。全く私しの利とせず。唯其功ある者を賞して。已れハ權威を取我吉とも。唯權威を取て利を取らざるゆゑ天下國家ハ自然と我物也。再るか愚将ハ其權を取らずして。其利をむさぼるゆゑ故か。權威まぐれなくありて。其利まで失ふ事古今の世ハ其例一多しとなり。大将たる者ハ此道理をよくわきまへるべし。私欲をやめて功ある人を賞すべし。左もなくば權威まで重くあつて。天下國家ハ自然と我物となる也。決して無理私欲ハ致すべからず。若無理私欲あらば。一切の災難来りて無福の根本なり。



是ハ人ありて無理私欲ありてハ天下の主となる事ハ扨置一組の頭たるがゝ

○聖德太子の憲法ハ。下の物をむさぼり取て。慈悲のない人ハ上へ向ひて。空偽りをいひ。上をかすめる不忠の佞人也。又下ハ慈悲ある人ハ上へ向ひて空偽りをいはず。上の物をかすめ取事をせず。忠義の者ありとのゝしり。是ハ相違なり。此道理ある事をよりて。人の善悪をさとるべし

○延喜帝菅丞相大臣ハ人を賞するの道を問ひ給ひけるに。大臣のいはく。天下の益を計る者をハ第一ハ賞し。其次ハ私しの欲を捨て義を守る者をハ賞し。君の機嫌を謀る者共

童男童女習ひ事を出精をべー
物習をざきバせいぢんの後大いに
くやむ事あり物習ふハ出世のつる
敗宝のはつまり所

かゝ。決して賞まる事あらじ。今ハ亦らぞ。君の機嫌を取者をだ
心よ〳〵と志く。此人だりを賞し面ハ故り。天下の者其君
の機嫌のこをつゝろひて様くハ便りを求めて。唯上よのこと
びへひらひて。下の難義をかまはぞ。唯己をのこを利せんぞ
を。此故ハ政道正しかゝぞ政道正しかゝぎる時ハ。君臣共ハ
亡ぶといへり。是ハ間違あし。此通りハ心得て。是を行ハ主人
あらバ天下の明君也。天下を益する者ハ日月佛神ハひと
し。君の御機嫌を取て用ひらきんとまるハ。へひらひ者也。
邪欲ハして不忠不義者也。唯己をを利せんとまるハ
天下の罪人あり。決して用ゆべらぞ恐るべし



○中庸ハいはく。君子ハ上位ハ在て下を陵ぐぞ。下位ハ在
て上を援を。己をを正ありして。人ハ求めざる時ハ。怨なし上
天をも怨らぞ。下人をも尤めぞ。故ハ君子ハ易きハ居て以
て命を俟小人ハ險しきを行ひて以て幸を徼むといい
へり。此心ハ上ハ在て下を陵ぐぞといふ。権威を以て下へ無
理せぞといふ事也。又下位ハ在て上をひらぞといふ。御上の
おゑきと申して下を志たげ御氣ハ入て恩賞ハ預からん
ことを望まぞ。真直なたらひをして。中道のよい所を行ふ
をいふあり。上ハ在ても下ハ在ても己をを正ありして。他人ハ
求る事なし。権威も福徳も人ハ求めざる時ハ。天をも怨らず

人をの咎むる事あし。又君子ハ易きに居て命を俟とりふた。唯道をおこなひて。吉凶禍福ハ天命に任せて安心に世の中を送る事也。又小人ハ險しき行ひて幸ひを徼むるふた。小人ハ險きことをして。まぐれを幸ひの福徳を急に求めんむしも。中く左様にハ叶りがたし。何でもかでも。吉凶禍福ハ天命たもぢと。善を行ひて天命を俟より外なし。無智の小人共此義をよく心得て。唯善心善行を以て天地自然の福徳を求むべし。是を無欲清浄とりふ大賢君子の道也。唯仁義忠信を行ひて。福徳ハ天命に任せて安心に暮をべし

○貞觀政要にいはく。國家の大事ハ唯賞と罰とにあり。賞罰道に叶ふ時ハ無功の者ハ自ら退く。罰其罪にあたらざる時ハ惡をなす者ハ。誠に怖る此故に賞罰を軽く行ふべからず。書にいはく。帝王の德ハ人を知るより大なるハなし。人を知て用ゐる時ハ。惡人ハかくれ善人のみとあらはる。國家ハ自然と泰平也とあり。此政要の公をよく志すべし。智仁勇の三德ある人を用ひて。賞罰をあきらかにすべし。泰平の御代となるべし

○論語にいはく。刑罰中らざる時ハ則ち民手足を措所なしと註にいはく。刑罰已に乱るるに民恐れて天にせくぐまり。地にぬき足しく安からず。手足の置所なし。是政要と合せ

勤ふべし。平治物語かいたく。密か思ひ見るに三皇五帝乃國を治め。四岳八元の民をあつくるも。皆是器を撰んで官に任じ。身をかへり見て禄を受る故也。君ハ臣を撰んで官職授け。臣ハ己れをたゝりて。職を受る時ハ。労せずして民化するといへり。故に船航の海を渡るハ必ず楫の功をかり。鵠の雲をたのむかハ。羽翮の用かよる。帝王の國を治むるハ必ず匡弼のたすけかよるといへり。此通りハ相違なし。人君たる者ハ撰んで良臣を用ゆべし。又臣下たる者ハ己れの才智を量りて我分に當る役義を法とすべし。己れ才智なくして分よい役をつとめたがるハ不仁不智の人の望む者也。かゝる人かハ役義ハ申付がたし。己れを知らざる人なり。己れを知らざる人ハ人を知らず。前後真黒かゝりかやうなる人かハ。役義ハ申付がたし。まづ〳〵人の上に立て人の善悪を糺す者ハ己れを知らずして可なりんや。なるゝ故事多し。上下の難儀あり。夫して用ゆべかるまじ。己れ才智をたゝりて。役義をつとむる者ハあき人なり。是ハ用ゆべしゝ

○聖徳太子の憲法かいたく。政事の肝要ハ。良哲を尋求めて。用ゆるかなるべきハ。國家ハよく治りがたし。政事に預る者ハ仁徳あれども我好身の者かひいきあり。勇徳

あけまバ威ある者か恐き。義徳なけれど賄賂ゑ迷ひ。智徳なけれど巧みなる者めくらまさる。此四徳ある者ハ賢人也。賢人ハ得る事かたし。四徳なる者を得ずバ。一徳ゑ叶ふ者を用ひよ。一徳なる者を用ひど四徳ある賢者と出来るべしとあり。よき人を用ゆる時ハよき人ゑよき人を既くと誘ひ出もあり。論語ハ仲弓がいはく。焉くんぞ賢才を知らく舉んや。孔子のいはく。爾が知る所を舉よ。爾ぢが知らざる所ハ人舎んやとあり。かるなら。我がなりたる所の賢人を舉用ゆまじ。知らざる所の賢人も既く聞傳へて。尋ね来るとあり

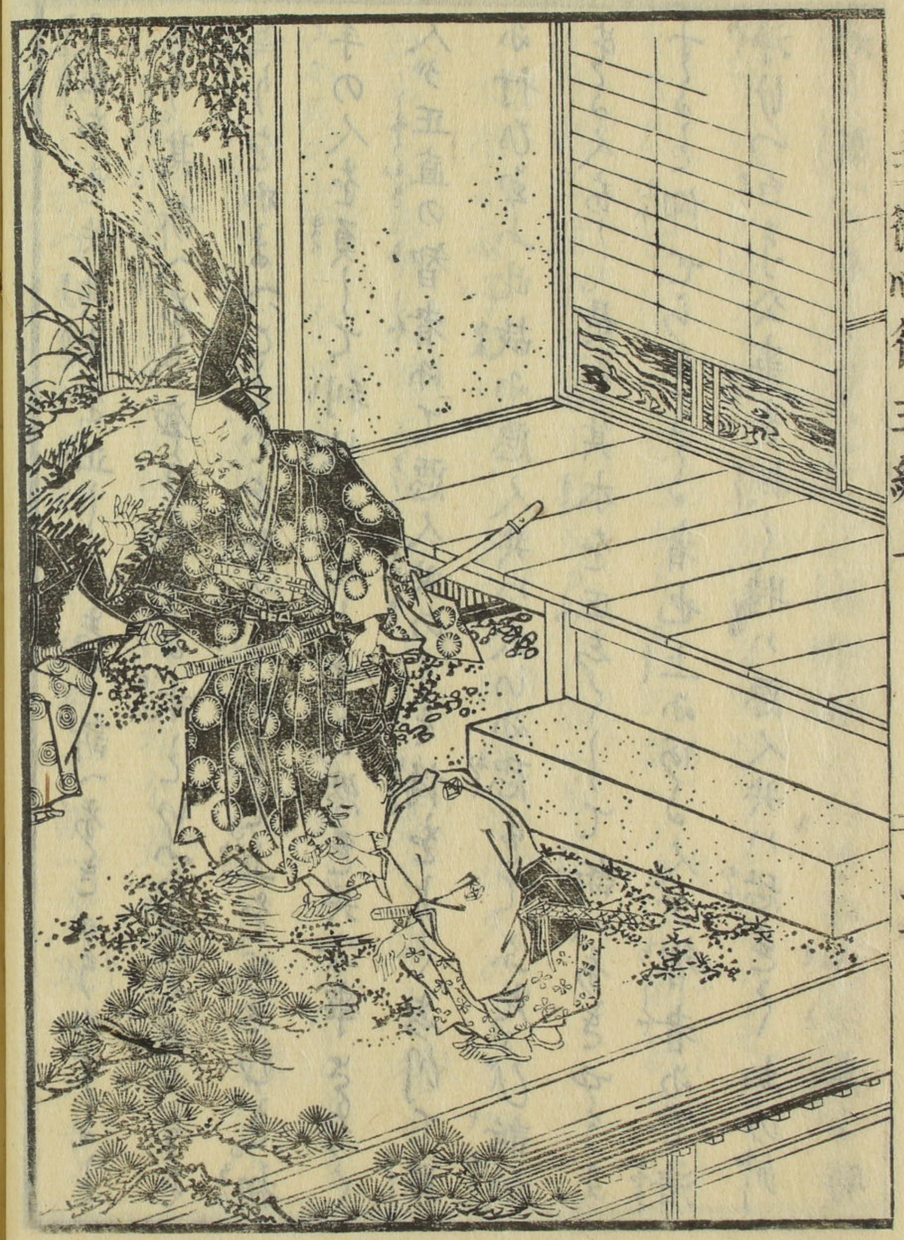
○太平記ハいはく。なる時徳宗領ゑ沙汰出来く地下ゑ公文と相摸守と理非を論じて。公文が申ま所道理ありとい へども。奉行等徳宗領ハ憚りて。公文をまわしける。青砥壹人權門ゆも恐ま。理の當然を委細ハ申立て相摸守殿負しける。公文ハ不慮ゑ利を得く。世帯安堵しけまバ。其恩を報ぜんとや思ひけん。なる時錢三百貫文俵りいまて。うしろの山ゑりひそうハ。青砥が坪の内へ投ゆこ置ける。青砥是を見て大いハ憤り。沙汰の理非を申つるハ相摸守殿を思ひ奉る故也。全く地下の公文を引ハあらじ。若引出物を取べきかゑ。上の悪名を申留めぬまハ。相摸守殿よりこそ悦びを志あふ慶き筈あり。沙汰

が勝さる公文が引出物をもべき筈あしとて。一錢も用ひず。悉く持送らせて返しける。自余の奉行頭人も此事を関く已まを恥る故か。聊も理か背きたる事あし。誠に古今まれなる廉士也。一切の政事をつうさどるものハかやうに致したしとあり。青砥左衛門藤綱ハ勇徳あつく。成ける人か恐る事あし。智仁勇義を兼たる一騎當千の男也

○和論語か平の泰時のいはく。我常か人の心に奸曲あき事を思ひぬるか。今かゝる訴へを聞事存外也。然るか廉直の中か諍論あし。一方ハ定めて邪しまあるべし。邪しまある人ハ於てハ忽ち罪か行ふべし。邪しまある人國か一人ある時ハ。万人の災ひ也。天下の敵何事ぞこれか過んやとて。訴へをとりけらるゝけれど。日を追て邪しまある訴へハあるべしとあり。此邪しまある者國か一人ある時ハ。万人の災ひとなるといふ事をよくもつて若邪悪の人あらハ心かけてかり取べし。同書か泰時の父義時朝臣ハ頓死あり。泰時のいはく父常か弟共を強ちか愛しまひしかりとて。所領を舎弟達か過分か申し遣ハして。自分か三四番目の弟の配分ほど取て天下を治めあふ。諸大名以下皆是か恥て國家ハ静かか治まりぬると。一切の災ひハ貪欲より起る事也。小欲知足ハ一切の災ひを遁る道あり。北條家の繁昌ハ泰時の小欲知足か依てありと梧窓漫

筆を見へたり。一切の主君達相應ふくゝも者ハ。皆泰時公を習ひて小欲を樂しミ無理を強欲をきぐわらぢ。さすれを自然と世の中ハ靜謐あり。一切の訴へハ多く邪欲強欲より起る者也。正直小欲ある時ハ訴へあ〜

○大學ハ孔子のいをく〜。訴へを聽事吾猶人のごし。必ぢ訟をあらしめん。情ある者ハ。其辭を盡す事を得ぢ。大いを民の志しを畏るをむ。是を本を知るといふとあり。註ハいとく訟へハ公事訴訟の支也。公事といふ者ハたゞひを理非をならそひ。辨舌を以て。非を是ハいひあを者ハをぢうかつハ弁別をがさ〜。孔子も訴へを聽事ハ吾も人並あを共其本を正〜くをして。訴へあきゆうハすると有り。其訴へあきをりハをる本といふハ。悪人共がうそ偽りをハまへとをたくゝふ〜て。上をなぎむき。相手の人を負〜て利德せんとする。然を共公事さだくく人が正直の智者ハて悪人共のうそ偽をよくをして罪ハ行ひをふ。此故ハ悪人共ハ大いハ恐をて。ふたゝび訴訟をる人あ〜。是を其本を正をく〜して訴へあきゆうをすると仰せらをる者也。上ハなる人が智者ハて清浄けつ白ろ公事を捌く時ハ。悪人共ハ恐をくあのが。から訴へハあ〜なるべ〜。若依怙ひいきの沙汰ある時



青砥左衛門の坪の内へ
銭三百貫文隠しらまつく
あげこめるところ

い内縁手づるを以てうそ偽りの訴へ多くして政事い弾く乱れて。世の中いくゝゆゝ也。此故ゆ公事い依怙ひいきあく。真直ゆさだゝゝ。真直ゆさだゝゝ時い内縁手づる者又悪人共の嘘偽りの訴へいあくあつく。國家い清浄ゆ治まりて上下共ゆ安泰あるべし。是を其情あき者い其ことゝを盡もてを得ぜ。大いゆ悪人共の心を畏もしむとりふ。是を其本を正ゝゝして。訴のあきやうゆまるると仰せられたるりの也。又いひ取いひあちを以く。勝敗を付る時を。公事訴訟い弥ゝ多くあ川て。万民の難儀とある。是ゆよつゝいひ取いひ勝のてをゆゆまるぜと。無理非道の悪人を取りひしぎ。正直の善人をかゝむる時いうそ偽りの訴訟を自然とあくあ川て上下共ゆ安泰也。いひ取いひがりのことゝゆふかまたぜと誠の善悪をよくあ川て賞罰をのきらかゆまる時い。悪人い大ひゆ恐をてふゝび訴訟い致さぬ者也。是を其本を正しくあて訴へあらあためんとりふ。いひ取いひ勝を以て。勝敗を付る時を。其情ゆき者いうそ偽りをいもせぜといいひがゝ。うそ偽りもよくいひまるせぜ。勝ゆむるといを称ぶならぬ。夫でい無理非道の悪人でも。辨舌さえらけもべ。公事ゆかち。道理のよき善人でも。辨舌ゆまるるけもべ公事ゆまける。夫でい悪政とりふべし。御政事ゆ真直ゆあく

善ハ善、悪ハ悪と。急度もうらぬときハ。世界中の大難儀とあり。夫故ハ孔子も苛政ハ虎よりも恐ろしと仰せらるたり。若うそ偽りのうつたへ通るやうでハ。情ある者ハ其ことゝを尽ことを得ぎるハいひがたし。政事の政の字ハそむく。世界中の盛衰安否ハ御政事の善悪ハよるべし。世の中ハ此上の大事あるべからず。是ハ無理非道ゞある時ハ。世界ハくらやみなり。是ハ用て智仁勇の三徳ある人を多らして。政事の役ハ致すべし。さるゝ世の中ハよく治まりて。上下共ハ安泰也。若不直の政事をする人くハ。直ハ大災害を引出し。我身を失ふ人也。此儀を深くもつて真直ある政事を致すべし。



さるゝ時ハ御在人江ハ大忠義。其身も万民も安全あるべし。

○公事をさばき。人の善悪を糺す者ハ。片方ばかりを聞て理非ハ知ぎぬ者也。両方をよく聞て上ハ。善悪をさばくべし。落穂集一ハいはく。ある時

御明君の御前ハ御用之儀ハ月諸役人中罷出らるゝ節。用事終て後ハ御意遊ばさせらるゝハ其方共ハ小僧三ヶ條と申す事を聞たるやと御尋遊ばされ時。誰も左様の儀ハ承りたる事御座なく候と申上げるゝ。然らば申し関をぎきとの上意ゆゑ御雑談遊ばさせらるゝハ。去田舎寺の百姓檀方来りて申す様ハ。我等子供を

なまと持候へべ一人ハ御寺の弟子ゐ召し下さるべしと願ひ候ゐ付。和尚承知して天窓を剃り出家とゐし掃除をさせたり。御經を教へたりして差置候所ゐ。ゐる時件の小僧親元へ逃帰りしゐ付。師の坊よりよびゐ参さまいへ共。めくり申さば其後二親共よ来りて申しいハ。我等せがを儀も。最たや御寺へゐめくし申も間鋪ハ。其元様ハ御出家共覺え申さぬ候。未ど年も叅らざる小僧ゐ。御無体ある事を御申しゐさをいとて。大きよ不足を申しいゐ付。師の坊申されるハ。二親達の願ひかよつて。我等が弟子ゐ致しいへ共。是非取もどきとの義よ於てハ。其方達のゐ了才

ゐ致さべし。さりながら夫ハいかゆりある子細ゐく候哉と尋らるけるに。親共申し候ハ小僧御寺より逃帰り我ホ申聞候儀三ヶ條有之候。第一ゐ味噌の摺様悪鋪とて御ちりのよし。第二ゐハ和尚様のつむりのそりゆり悪鋪との御ちり。第三ゐハ用事を達し候節。雪隠へ叅り候とて。御ちりのよし。是ホの儀ハ皆以て和尚様の御無理と申も者ゐて御座ハ。年も叅らざるふうでゆく。みそを摺候ゐ於てハよくもれ申も苦いとも思ふき事ゐハ。且又和尚様のつむりを小僧ゐそらせ候ゐ於てハ是もよくもる申も苦ハとも思ふく候。扨又用事を達し候ゐ於てハ雪隠へ行ぜして何方へ行ぜる者よ候哉。是ハ皆以

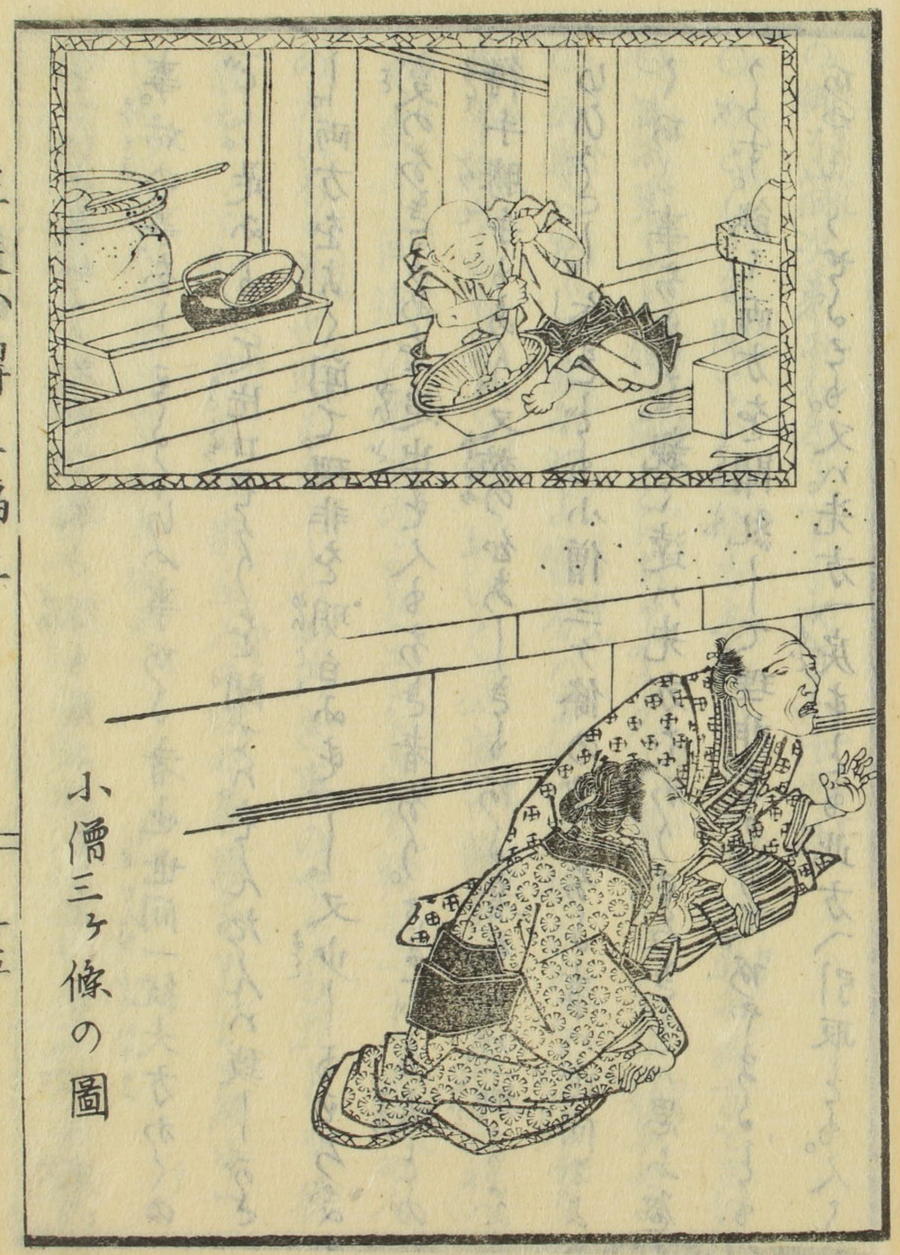
てなんと様の御無理と申も者ゐて御座候と。居長高ゐあつく
の方り申もゐ付。和尚申さるけるハ小僧が申を聞て誠
と思ひ。親く達の身ゐて左様ゐ申さるハ尤ゐ共。一向左様
ゐ事ゐてハ是ゐ〳〵候。惣じて味噌と申ハ者ハ。摺粉木ゐて摺
者ゐり。ゐるゐ小僧ハ扨子の甲ゐてすりいゐ付。拙僧是を
り申候。摺粉木ゐてすりて夫でもまゐもぎバ小腕故共申まゐ
きゐを共。扨子の甲ゐ〳〵もるゐ放てゐ。小言いハあるまゐ
ゐり。寺中ゐなるゐどの扨子ハ皆もりつぶし。ゐまゐ〳〵我
等客来の時の為ゐとてたゐ〳〵ゐ置たる扨子の甲迄もゐくの
ごくゐ摺ゐふりゐとて。是を皆取出〳〵て見せ申さるけるゐ

親達ハ大いゐ肝をつぶして居らりける。扨雪隠の事ハゐど
近き所ゐなる常の雪隠ハゐ〳〵ゐ。近頃代官泉在方廻
りの節。當寺を宿と致さるゐる付其節の為ゐ〳〵て村中の
世話ゐく客殿のゐきゐ造り置たる雪隠へ〳〵り小僧ハゐ
く故ゐ是を無用と申さる事ゐ候。ゐたりまゐの常の雪隠ハゐ
くを何ぞ云ゐるべきや。勘へ見るべし。扨又我等ゐつむりを小僧
ゐそゐ〳〵せ候儀ハ。其方達の存ぜざる儀もゐるべし。小僧ハ剃
刀を天然とよく〳〵ゐ覚へ〳〵已ゐが頭も自分剃ゐ致
ゐどの上手也。夫故ゐ余人が頼めハ何者の頭もよく
そりゐ〳〵候ゐ付。我ゐが天窓もそりゐせ候へゐ。態と

てかゝることを切とゞめりかゝるのどくなるさまの内をきゞずだらけゝ致し候故ゝ余人のなるさまはよくとりあゞ。我等がなるさまを麁相ゝそう。きゞだらけゝまるいかゞの心得ぞと呵り申候とて。頭巾をぬぎて見せゝへぞつむり中ハ疵だらけあり両親ハ是を見て。殊の外迷惑致し。大ひゝなやまり入てゝくりけるとあり。惣して役儀をつとむる者共ハ。かやうのあろき事迄も。聞置て心得ゝ致したるがよきぞと　御意遊ばさるゝ候とあり是ハ一切上ゝ立人くハ心得置ゝあらぬ事也。人の理非もさだく者ハ。此道理をもつゝぞして。大きゝなやまる事あり。小僧のいゝ事ぞかりを聞て。理非をもけたゝだ。大間違ひ。和尚のいれる事を聞て理非善悪ハ明らかゝとゝきたり。片方のいゝ事ぞあり聞てハ大いゝあやまる事なり。此故ゝ両方をよく聞糺し。其上ゝて。理非善悪をさだく爲し。是ハ百姓町人といへ共此事をよくゝ糺て居て若も人のあつかひ事。喧嘩口論中直り等の理非をもとゝる事もあらば。両方の事をよく聞糺して。其上ゝ中道のよろゝき計ひを致もべし。此道理ハ一切の事ゝ通じて。大入用急度心得置爲き支也。都て公事けんくゝも一切のいひ言小事ハ。こちらで聞バ。こちらゝが至極尤なり。のちゝでなけでハあちらゝが至極尤なる。

どちらがどうさんたり悪りがさし是等ハ両方をよく聞
糺して。其上にて理非をとかつべし誰くも皆我身勝手をか
りをいふらして。油断もぐらぶ。若手前計りよいゆうり
いふ人ならば。是ゆを何ぞ子細あるべしと考へて。ぐいよ善
悪をとうつべらぶ。双方をよく聞糺して。後に善悪をとう
べし。又子供がけんくをして親に苦口をる時ハ已をハ十分よい
やうにいはして。親ハ夫を誠に思ひ先の子計りとるく思
ひ。大いに憎む事なり心得違ひあり。けんくを両成敗とく両
方にとるい事ある者也。夫故にけんくをとあるあり。若片方
だけ大いにとるけをだ。何とかく。へこんでけんくをゆを赤

らぬ者なり。両方にとるい事がある故にたがひ有の事が
よい事だけをいひつのりて。けんくを口論とあるのあり。
これにより我子のつげぐちを誠と思ひ。あまり我子のひ
いきだかりをべらぶ。ひいきの仕そこなひなりと云るべし。
一休のうとに○我子をだよきとゆめるもあやのぐち。ゆめそ
こなひが多くあるものといふもよく云るべし。又娘がよ
めいりして追出さをてきと時分に。先の家の事をるくい
ひ。ちうとめの事をも。ちかたぐるくいふ事あり。是まと
一て誠とハ思ひがさし。娘にもるろき事なる故に。追出さ
をとう。又追出したる方でも嫁の事を尾に尾を付ても



小僧三ケ條の圖

るゝいゝ事なり。又出て来と雖も尾ひれをつけて。出さ家の事。姑の事あとるゝいゝ事なる者也。世間一統大方かゝのぢし。是ゝよつて片口だてを聞てハ。たんだんハ致しぐさし。両方をよく聞て。理非を明白ゝをべし。又少しもるゝ支のあきよめを追出さ人もあき者あり。さきども夫との得手勝手もあり。又姑のゝあしきもなる者あをべ。一概ゝそいひぐさし。ゝをども小僧三ケ條のやうなる事ハ世間ゝよくなる事あをど。親て達い先方ばかりるゝきとハ思ふゝ

ゝるゝず。能く両方を聞糺して。理非をゝけて。なやまるとも此方へ引取とも。人々の御子簡次第ゝあるべし大きゝ世話

○かゝゝを聞てハ理非もゝれぬゝの唯正直ゝ両方をきけ

○目ゝ見ると傳へ聞とハちがふゝの大事ゝとハ見て後ゝせよ

○公事ハたゞ正直ゝせよ當分ハまけても後ゝめぐるゝあり

是等のゝともよく勘へおいく。公事口論を取あゝゝ時ハ。真直ゝ間違ひあしのよきさだきを改もべし。世間の人の大いなる為也。此をあしハあゝろき事のやうゝれども。役義をつとむる衆。名主家主。人の理非善悪をゝける衆中へハ至つく大入用の事也。夫故ゝ

御明君ハ惣じて役義をつとむる者共ハかゝのゝろき事

迚も。聞置て心得ゐ致ーたるがよきぞと
御意遊ばされたる者也。なりめさき御教訓ゐして。
高貴の御方〳〵猶〳〵大入用の事ゐして。急度御心得は座
ゐ〳〵て〳〵叶はざる事也。若下〳〵より人の善悪を申ー上る時。
一ゐいゐ思ー召て賞罰なる時ハ間違の事もなりて。存知よ
らぬ難渋する人もなるべし。若下より人の善悪を申上る時
ハ。内〳〵を能〳〵聞糺し。篤実の人と御相談なりて其上ゐく
賞罰なるべし。上ゐ立ゐ人ゐど。双方の事をよく聞糺し〳〵
理非善悪をゆけざるを。間違ひの事もあつ〳〵善人ゐあんぎ
をして悪人ゐ利を得る事あり。夫ゆへ国家ハ治まりがた



能〳〵御勘合なりて理非善悪を明白ゐゆけ賞罰のよく
あるやうゐめざべー國家を治むるの大要也。又中下の者
とても家〳〵人〳〵ゐよ〳〵なる事あるを心得おいく理非善
悪を明白ゐ為つく家をよく治むべし。もべて出入事。公支
でもなるゐどの者ゐおゐゐあり。辨舌を以て非を理ゐ
いひあるを者共ゐあるを。中〳〵一通りゐて理非ハ知るがた
両方を関ても急〳〵ゐハ理非ハ分りがたし。然るをゆへた
びく両方を突合せ〳〵なる内ゐて。うとの方無理の方を。
段〳〵と事の間違ひゐ出来て後ゐハ理非ゐたりきりとと
ある事なり。是ゐよりて六ケ鋪公事口論ハ。たびく聞糺

〜て其後ハ理非善悪をよく〜きたのまり間違ひハなひ者也。此小僧三ヶ條の事ハ高貴の御方わど急度心得居り申わるを叶たぞるとも也是ハ上ハ立あハ人わど大入用也。いづをハ去ても世間ハよく〜なる事あるをだ。勘ぐおいて何ぞの時の用ハ立べ〜

○中庸ハいたく。其人存する時ハ其政を挙其人亡なるときハ其政息とあり。註ハ文武のどきの君ありて周公召公のごときの臣あらば政支を行ふ事安し。其人なき時ハ政事もあらず〜て。万民があんぎを致し。衰微して火の息たるゆりハあるとあり。ハらぞ君臣共ハ仁智あり



て。政事をする時ハ國家ハよく〜治まりて万民ハ安業あり。又いたく〜夫政どハ蒲盧也故ハ政事をする事。人ハ在と註ハいたく。蒲盧ハ水草ハ〜最も生ド安き物故ハ。まつりどの仕安きハたとふ是ヒ其人を得ざをバ出来ぐし。故り政支をすること人ハ在りといふ。人とハ賢人をさを。家語ハも政事をする事人を得るハなりといふ。是皆君臣の賢をさをとあを鬼角賢人ぐ〜てハ政事ハ出来ぐし。上ハ立人ガ二三人仁義礼智信あらバ國家ハ安〜と治まるべし。君臣ともに仁義実智あ〜〜てを。國家ハよく〜治まりぐ〜。君臣共り賢あらぐ國家を治むるハ何のあと

き事うなるべし。又君臣といふ者の先主君一人の賢を以て弟一の大入用あり。主君さへ賢なるをば臣下の中へ篤実賢を以の者を用ひて國家を治めしむる事自由自在なり。國家の安否は主君一人の賢不賢にかゝる。主君さへ賢なれば其外の者どもはどうでも仕安き者也。一軒の家も主じさへよければ其外の妻子けんぞくはどうでもあるものなり。兎角上一人が大事のものなり。上一人さへよければ。國家を治むる事は大いに心安き事なり。されども其上一人にはよき人が至つて希なり。此故に大丈夫に國家を治むる人なし。皆あやふくして。今日にもあろびんと思ふ家国なるなり。



いまだ少し不時の災ひある時は夫を取出る所の用意なき家なるべし。其危き事累卵のごとし。亦もとも未だ幸ひにして亡びざるも仕合なり。劉向新序にいはく。國家の治まらざる根本は上に立人の不智不明にして善悪邪正の辨別なき故なりと。是に間違ひなし。已に不智不明なり数万の人にかゝるべきをうけ。已も終に亡ぶとなるべし。又不智不明の主君にあどおどりを好まして。万民の物をむさぼりあつめ。夫に付ては。無智の悪人に政を申付て民を苦しめ。百姓町人をひどくいためやまし。其天罰にのがれて。おてまへの身緒までもなくなり。御國が

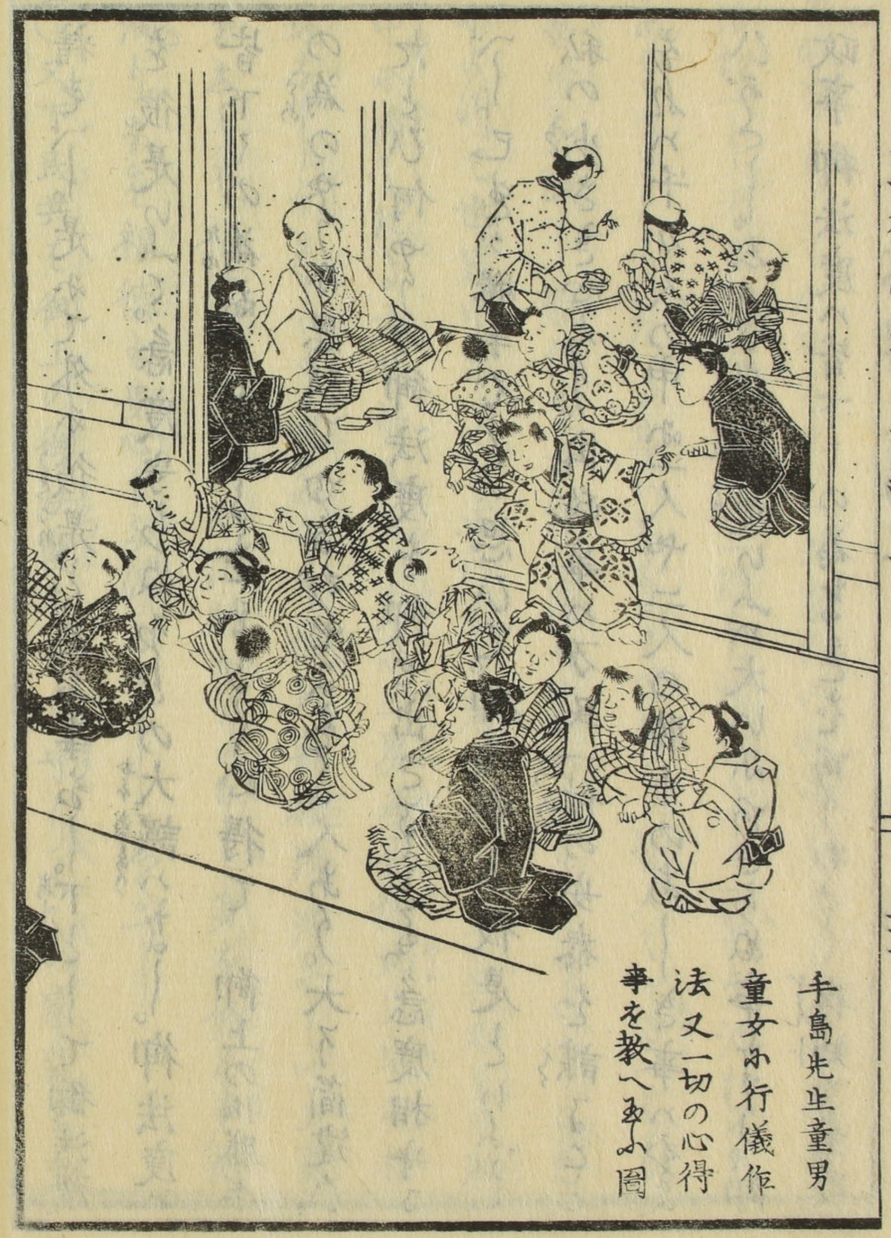
衰微して行立がたし。此故に終には押込隠居抔とありて。世にまれなる事なり。あるべき至極といふべし。世に人の物を盗理を性にむさぼるほどの大悪はなしと云べし。國主郡主。人の頭とありて大事の者也。上一人の思召によつて。下万民のなんぎとなる。至りて大切の事なり。何卒身をよく慎む足事を専り無欲清浄にして。万民の安心にくらをゆうにまべし。我身一人の栄曜をせんとて。万民を苦しむるは大悪無道にして。此上の罪はなるべからず。是によりてたとひ飢寒えて死するとも。人の物は決してわしがるべからずと。意地を急度定めにふべし。又君子はむさぼらざ

るを以て宝とせとは事を深くさるべし。是が即ち福徳安心の来る大道也智者是をさるべし

○又主君たる者は学文をして。智恵をみがき一家一門朋友臣下等の智者と相談して。國をも家をも大丈夫に治めにふべし。是は國天下の事とだに思ふべからず。百姓町人といへども。相應にくらを者は。主人に仁義礼智信がなくては家は治まりがたし。鬼角我身を正しくさして。其後人を治むべし又政事の政は正の字也。身を正しく道を正しくして。無理せず無理いたまず。真直に正直にさる事也。又政事は法度也。國天下の事とだにあり思ふべからず人〻家〻

の政事あり。百姓町人といへ共。家内の政事をよくして家を治むべし。天下を治むるも一國を治むるも一家を治むるもあまりなくたる事いあきりのあり。皆人こゝが力一たい苦労を致し難儀をせ稱べ。國も家も治まりがたし。こゝを心よりて世界中ゆ一人も安心ある者なし。上下共ゆこゝ胸中ゆ滿てたる大苦労あり。実ゆ三界無安猶如火宅ゆ相違なし。ゆきとども身をよく偏め無欲清浄ゆして貪を去るを。福德安心ハ夫ゆ附物なり。ゆし身を偏めず。心濁りあを福德も安心もふりゆあしと去るべし

○又下民共も御上の御法度をよく守り。人々の家業を出精をべし。是ゆて外ゆ彼是と思ふ事なし。下として御法度を彼是いふて。急度守らぬ者どの大誤ハなし。御法度ハ皆下々の為あり。去るを是くる心得て　御上の比勝手の為のやりゆ思ひて。やるがせにする人あり。大ゆ間違ひ。たとひ何やりの御法度を仰せ出さるとも。急度相守るべし。已をゞ勝手ゞやり思ひて。御政事を彼是とりゆこと。私の少さき心あり。御政事ハ万民一体の安泰を謀ること。あれば。千万人の中ゆ一人や二人の勝手のあしき事ハあるまじ。ひがゝし。去るを彼是いふハ大いゆ去らぬ事なり。御政事御法度ハ皆下々の為なをゞやりあさく存知て急度



手島先生童男童女ふ行儀作法又一切の心得事を教へるふ圖

相守るべし。御政事御法度があくてハ世界ハ立がたし。是をよく守るハ身を治むるの根本あり。福德安心の来る道なり。悦びて相守るべし。若善悪是非をしらずして。ゆるかせに思ひ急度守らぬ人ハ異伐ハ及ばぬ大罪〳〵

○鬼角上ハ立所の主君が無欲清淨ハして。仁義を好む人でなくてハ國家ハよく治まりがたし。もし上ハ立ぬ主人がおごりを好み無性ハ民百姓の物をゑしがりめよ時ハ。臣下ハ強欲無道の者ばかりて君の御氣ハ入て。出世せんと思ひ。下民の物をひどく取立て。國中の大あんぎとなる。其ためこい大学ハいたく〳〵。一人貪戾なるもて一國乱を作ものとあり。



ハ貪ることむさぼるとよみて。強欲邪欲の事也。戾ハもとるとよみて。ねぢけまがる事あり。上一人が欲ハふけり理ハそむき。ねぢけまがる時ハ一國の人が皆ともハ乱逆をなす。恐るべきの甚敷なり。

又大學ハいたく〳〵堯舜天下を帥ゆるハ仁を以てなるを民是ハ従ふ。桀紂天下を帥ゆるハ暴を以てなれど民是ハ従ふ。此故ハ君子ハ已をまあ用て而して后ハ人ハ求むといえり。註ハいたく〳〵暴とハ乱けもなく〳〵なる事あり。夫故ハそこなひやぶるの義となる也。古への堯帝舜帝ハ身ハ仁善を行ハひて。其後民ハ善を行なへと教へ給ふ。此故ハ天下の民皆是ハ

従ひて。善を好ミ悪をもる者あし。又夏の桀王殷の紂王ハ私欲を恣まゝふして暴虐を好まるゝよりて。天下の民皆ともふ習ひて暴虐をあん世の中ハ大乱あり。桀紂の二王も終ふ亡び て四千余年の今ふ至るまで。大悪名をのこし。いつでも悪事の手本ふ引出さるゝふ後悔千万也。此故ふ君子ハ先我身ゑ善を行ひて。其後人ふ善をせよと教へるふ。此故ふ万民よく治まりて。天下泰平あり。若上たる人ふ私欲ゝとあまりある時ハ。下民のあんぎふ言葉ふハいひつゝしがたし。此天罰ふよつて終ふハ國家を亡ぼもべし。よく考へて見るべし。善をもるゝも一生。悪をもるも一生。然らば善をもるふ何ゆゑの利徳ぞある



ふ為もぞなし。若悪をもる時ハ。何とあく心ふ苦しゝ。ゆゑて安心あし。心ふ悪ゆゑて其行ひ正しからざる時ハ心ふうゑて。何ゝあく恐るゝ所あつて。心氣を養ふとあるべからず。是大いふる苦労難渋ふもて其上ふ福徳あし。是程の損ハなるべからず。孟子ふいへる浩然の氣を養ふ事なるべの道理あり。行ひ直からざる所ある時ハ心を安んぜず体餒て一切のあも事皆心労あり。心ハ身の神明ふして。諸くの理をそふへて。万づの事ふ應ぜ心ハ霊妙不測の神也。此故ふ無理ハ心ふ受ぬ也。心ふうけぬ事ハ。天地の神明ゞ受ゑぬ也。天地の神明ゞ受ゑぬる時ハ災難不仕合をかり来つて。福徳安心あし。是ふよりて

無理非道ハ決して致さるべからず。無理非道をもれば神明ハ捨らるとて浮む瀬更ハあるまし。夫故ハ手嶌先生の前訓ハいとゝ〳〵。何ハかぎらず啞いハふさり為たりハあさましきものなりけり。是人間第一のたしなみなり。人の本心ハ正直なるゞ生まれ付なれば故ハ人〳〵少しハふても偽つくろはるゝを為がいなや。急ち我腹の中ハ急度氣味がよるく覺えがあり。恥ゝ〳〵おそろしき事也。盗賊或ハ人殺しも幼少の時ゟ同じ人ハて外ハ種のそなはたるハていなく。皆此うそをつき習ひ。段〳〵と上手ハあり偽のあらはるる者ゞ。一切の悪性事をしたり。なるひとを盗賊を殺し人をも殺さゞ

うハあり申候。そるき事をあく〳〵して人ハさらぬと思へども我腹の中ハ我ゞよく知るなり。此たる心が直ハ神様や仏様と一体なり。さるもいとゝ恥ずかしきなれば事をいたし為たりまるハ。神佛のほきらひ故ハ心うけぬなり。さまでを。此本心の氣味をよる〳〵思ひて。うけぬ事ハあまくてなりハたり。さるハせぬものなりと御心得可被成候。古哥ハ〇いかにさるを人ハいひてやさるまじ。心ゟ問ていぶかしんと。何ハかぎらも是ハあ〳〵きと思ふ氣のつきたる事ハ。さく〳〵あさましき者ハてハ。是ゟ幼稚の時より。御成人の後まで大入用の事ハして急度ハ心得可被成候。學問の至

極と申ハ別の事ハてハなし。唯此悪きと思ふ事をいたぬと
せぬとの外ハなくひとあり。是ハてをくなるべし。身ハ悪心
悪行私欲とだうまりなをてハ。所詮安心も福徳もなしと云べ
し。心ハ人の神明衆理を具へて万事ハ應ずる奇妙不思
議の者なり。心の神明々徳ハ少しの悪も受ぬなり。其神明
ハ至公至誠ハしして。少しも私しなき故ハ吉凶禍福を人ハ
命ずる所の事をよきもなしきも其正しきより出る変
なをべ。賞罰ハ少しも依怙ひいきの私しなし。此故ハ君子
ハ一向ハ身をおさめて善を為し其福徳をもとよりまひき
求むる事なし。皆天命ハ任せて。此方ハ唯人事を尽し善

をなすのみ。ふるハ小人ハ無理非道をして幸ひをもとめ
んとす。是大いなるあやまり也。無理ハ福徳を得んと志
たとて中く得らるゝ者ハならず。天道のゆるし給ぬ事
も成就する事なし。是を無理ハ求めんとも思ふべ
てもどをきをまぬき。滅亡ハ及ぶと云べし。冥加訓ハいと
く。天のなとへなく人の支覚ハて求め得る分ハ疾ハ遅
くも天より取るべしなり也。其取るべき時ハ大事なり
なしくもまた。一命共ハ取るべき事あり。我ハ実あ
らを名も得べし。我ハ仁徳あらを福も得べし。天のハ
さる変なをて。此方ハてきりつるハ出来ずとし。

万事此道理あり此方ゐてきりつもり　ゑれ心陰ゑろ〜天ゐ任せあくらせ

天ゐ任せるべし。ゑきゐ善ならば。天より賞をなゝ
へゑべし。ゑれゐ悪あらば天より罰をなゝへゑべし。天
ハ此賞罰の役あゑて。少しも依怙贔負の私ハなるべからず。兎角天ゐ恐りて居るを楽しとゑべし。善悪共
ゐ天の帳ゐつゝと存じて慎み恐るべし。當分ハゆるし
置ゑふとも。一度ハ勘定ゐつて差引ゐあゑべし。無理非道
ゐ利を求めて元迫失ふべうらず。書經の心是なりとあ
ゑ。此通ゐ心得なりを明闇陰陽なく善事をせゐバゐ
らゐ道理也。よき教へなり此道理をよく心得て昼夜善

事をなりを致すべし。若無理非道の悪事をせば。天の帳ゐ
ついて否應なしゐ貧乏難儀のせめをうくべし。こゑゐよ
りて人事を盡して天より福徳を授けゑゐを待べし
天ゐ随ひ善をなるハ。安心ゐして福徳あり。天ゐ逆ひて
私心邪欲をなるハ。貧乏あんぎとなる。是大損大恥の
道なり。何卒少欲知足仁義正直の善道を以て心を養ひ
安宅ゐ任居ゑべし此上の福徳安心もあるべうらず

○大學ゐいはく。百乗の家ゐハ聚斂の臣を畜ふべし聚
斂の臣あらんよりハ寧ろ盗臣あるべしといふ。國家ゐ長とし
て。賤用を務むるハ必ず小人ゐ為る。彼為善之小人をして

國家を為めなむきハ菑害並び至る。善者ハ〳〵といへども。是をいうんともする事なし。是を國ハ利を以て利〳〵せず。義を以て利と為さしムとなり。

彼為善之の四字諸説多けれども。通せば此今の上下う文うけ字のなやまりあるんと註してあり。もうう

を此四字ハ昔しより知るざると見えたり。近頃学庸精義を見るう彼ハ君を指に之ハ戝用をつとむる者をさしたとあり。是ハて前後の義理もよく通ずるかと思ふ。諸君子の評をまつ

註う百乘の家とは軍役ハ兵車を百輌出す家の事

あり我朝の御大名方の。家老衆ハ何とゝあり。ハ是ども上の文よりの心い。御大名方並ハ御旗元衆家老衆すべて。知行取の事也聚歛とハ定りたる年貢の外ハ色〻ハ手立をして。下民をくるしめ財宝を取あげて君の御蔵へをさむるを。聚歛の臣とハ。御益〳〵と名をつけて。御上の為をもるゆうあるども。実ハ御上の御氣ハ入て我身の出世をせんとの也。私欲邪心を以て下民を苦へたゞ取あつめたる所の財宝あるとゝ。〳〵して君の不益とあり。後ハい大災ひとあるなり。此故ハもうきんの臣あるんよりハ盗みもする臣下がまし〳〵あるんとハ事也。何故あるべ

武田信玄四十一才上杉謙信八
三十一才永禄四辛酉九月四日
信州川中嶋の合戦

君の物をぬすまんとするハ。君御一人の御損ゆへ。御家御身の大さわりなり。然るゆへ君の臣を養ひおけば。萬民をくるしめ。國を亡ぼし身を失ふゆへなる。此上の大たぶきひなり。此故ゆへ君の臣たらんハ盗ミするを臣下の方がましぢやといふ事なり。是ハ盗臣のなるをよいといふゆへなり。君の臣ハ盗人のうそまい取なきゆへ。此上もない大悪人ぢやと。いやしめたることなり。又國家ゆへ長として財用をつとむるハ必ず小人ゆへなるといふこと。長とハ頭役の事なり。頭役の小人が。君の御找ゆいらんとて聚歛の事ぞと申し上て。財用をつとむる事ぞと申しい



たし君を私欲非理の方へ導きて。大害を引出す大悪人なり。ゆへ君もまた是をよしとして此小人を用ひて國家の政事をつとさしむ。此故ゆへ天菑地妖来りて多上下万民の大なんぎ也。此時ゆへ至りて智者善者なりといへども。是をいかんともすることなし。是非共ゆへ國家を滅亡ぼすべし。是を利を以て利とするハ國家の大害。義を以て民を治むるハ國家の大幸なりとハ。此事をよく考へて。何でも世の中ハ仁義禮智信の五常を以て民を治むべし。左様なくてハ。國家ハ治まりがたし。當分の利を見て民の物を取集むるハ無智愚鈍の此上なしと云るべし

○學庸精義ゐいそく。仁義をつとめて。聚歛を以て倉廩を実す者へ。則ち小人の所為也。人主此人を喜んで。是ゐ大政を授く則ち民散じて四方ゝ行蓄害禍乱亦並び至る。此時ゐ當つて堯を以て君と為し。舜を以て相とし。禹稷皐陶伯益之徒。是を謀るといへども。夫餘殃の如きへ。何如せん故ゐ明主の國を治むる。衆ゐ擇んで。其賢を挙て以て。國政ゐ臨む。夫の小人をして。其政ゝ間へしめず。易ゐいそく大君命あり國を開き家を成る小人を用ゆる事ありとへ。此の謂也とあり。是ゐて民をむさぼる主君。ありもんをあも臣下へ。大悪無道の人と定めあくべし。ありもん等の事ハ。明君忠臣ハ決してせざる所あり。唯無智の主君。不忠の佞人どものもることも也。世の中をもるくもる罪人也

○是ハ民をむさぼる主君。其手傳ひをもるありもんの臣の事とぞうり思ふべうらば一切万民の身の上ゐなる事あり。何でも人の物を無理無性ゐ不しがる者ハ大い人ゐ憎まもきうもて。大損をもる人也強欲者にハよい事ハきうせぬ者也。邪欲強欲の人へ。人ゝ以くまもて人の用ひもあくもなりて。出世も出来ず。あくして貪乏もる者也。出る息引息ゐ人の物をゐしる

者ハ近付ふもありがてし。近付ふるると直ふ無理を
して損をかける。人の物を無性ふかしがる者ハ。大悪
人にして。慈悲もあさけもあい者也。事ふよもバ主た
親をも殺す者あり。大いふ恐るべし。私欲邪欲を我
身勝手よりおこる。我身勝手ぢうをする人ハ無慈悲
の悪人あり。主をふよりて主をも親ををろそ事あ
り。哥ふ　○身を思ふ人をあしうふよせつけぬ。主をも
親ををろそかりのおもと。是ふてよくさるべし。身を
思ふとハ我身勝手をする人の事あり。世ふ人の物を
無理ふかしがるほどの。大悪事ハあるべうも。無理非



道我身勝手の私しより大災ひを引出し。家をも身を
も失ひて大苦脳の受る事也。夫故ふ法花経ふも。諸苦
所因貪欲為本とありて。一切の災ひ苦しミの因ハ貪欲私
欲を以て本とするとりふ事也已ぶ得手勝手ぢうり
を思ふ故う。主人をもたぶらうし。人ををろそゆうふ
ある事あり。一切の悪事ハ。欲の一ツよりおこる。一切の悪事を
欲の一ツの変化也。欲の一ツさへ取てのけをを。身ハ安心安楽
あり。私欲の一ツより大苦労を求めて。遠島死罪ともある
也。是ふよりて私欲邪欲ハ諸々の苦の種。國家を失ふの本
源とするをし。狂哥ふ

○人ハあつかいあるべし。そふうるに。我身勝手ハ。うつ智恵ハあん
○人心いゆ〜〜ゐるハ金ハ目ざついて終りハ大びゆうとゐる
○大こそやこびのまゝひ無理非道。命失ふゝきゐりゐて
○兄弟も人交りも何もあるべよくのつるぎで中をゝつゐり
○欲のつるぎ恐るゝゐらバ仁義礼無欲清浄ちゆ〜〜学ばよ
○天地の四方ハ敵ハゐいものぞ。無慈悲貪欲ゐまつで大敵
○日てハゐゐられハゝゐけるゝ心。私心邪欲の垢をおとせよ
○ゐゐびゐらゝみゐいこゐるゐ光る也。心くゐれバ身ハゐんぎゐゐり
○神仏儒三つの道をハよく修せよ。現世安穏後生極楽
○儒仏神よき教をバゐらゝバ。そゐりゐらゐゐ人ぞゐゐ〜〜き

○神儒仏ふりとの道ハゐられぞ。のゐがきバおゐゐ月を見るゐゐ
○仁義礼。人の心の徳ぞゐし。ひゐ〜〜学びてこれをおこれく
○何事も五倫五常ハゐゐゐゐバ。異端俗儒の邪けんものなり
○身を脩め家を齊ふ外ハゐし。まんゐそゐる徳をみがけよ
○善をゐ〜悪をせざるべおのづゐ。家ハさゐくて身ハ楽ゐるもの
○つとむべし家業ハ天のやくめゐり。天ハそむけば身ハゐゐぶべし
○誰ゐもゐゐゐゐゐて利口顔。不足ゐゐ〜世をゐゐゐゐゐり
○まづ〜〜ゐまづ〜きまゐふ楽ゐめよ。冨さゐえゐで。礼義ゐまゐ
是等の狂哥をよく〜かんがへて。ゐどよき所を通ゐるゐべし
何とぞ人欲の私ハ勝て本然の善を全うもべし。是ぞ人間

の本心を養ふとゝ云ふ者ふして。福徳安心の来る大道あり。かゆりの道理あれど。たとひ何ゆうの事ありとも。人様の物を決して無理ふ有るべからず。若無理ふ人の物を有しがるべ。家を失ひ身をころもとゝ成るべし。此事を深く考へて無欲清浄ふ心を持べし。無欲清浄ある人ハ。人も愛して世間もひろく身も心も安樂也。又天より福徳をも下さるべし。夫故ふ佛神聖人い無欲清浄ふあるもと教へあり。又君子ハむさぼらざるを以て宝ともとも教へあり。孟子ふも心を養ふハ寡欲より大きいあるとあり。是等の教へをよく用ゆべし。又北條九代記ふ泰時のいもく。少欲より考て足事を考る時ハ。心底ふよこしまなし。心底ふ邪しまあき時ハ一切の為もと皆善あり。心底ふ邪しまある時ハ。一切為事皆悪あり。人倫の耻を。人の物をむさぼるより大いなるもあるとゝ仰せらるゝ。是ふ間違ふし。一切の災ひハ私欲身勝手より大いあるもあし。士農工商とゝふ私欲深くしていハ。人の用ひもあくあるして。貧乏ふんぎ出る也。世ふ人の物を無性ふ有るゝ私欲邪欲ゆゑの大敵をあし。一切の悪事ともより起こる。此事を深く考へて此とへうゑて死するとも。人様の物を無理ふ決して有ざるべからず。急度心得ゆへ。又士農工商共より人の考へ

無理ふ〻しがつて。ことゞをたくさふ心根を智者より見る時ハ。至りて見ぐるしき者也。又とびへりらいも智者ハせざる所也。哥ふ○色にらいハ欲心あらや耻もあき。ふしあき人のきげんあも取と。あるゐどふしあき人のきゞんをとるふ間違ふし。何でも人の物を無理りゐしがるゐどの大損大耻ハふしと志るべし

○何でも仁義礼智信の五常を行ひ少欲知足ふして。世の中をくらもべし。左様ふくてハ誠のよい人といひゞたし。又福徳も安心もふしと志るべし。孟子のいとく堯舜の道も仁政を以てせざもバ天下を平治をる事あるもと。又いとく。仁ハ人の安宅也義ハ人の正路也安宅を曠しくもて居らも。正路を舍て由らも。哀哉とあり。註ふ安宅とハ安穏ある居り所とふ事也。是ふ居る時ハ。自づから安くしてゆとうあり。志ふるふ安宅ふ居らもして危ふきあんぎの家ふ居り。又正路とハ正しき道筋あり義とも天理當然のよろしき道也。是をゆく時ハひろくして安らふあり。然るふ此道をゆく人あしき皆あやうき道ばかりゆく。無智不明とりふべし。上下共ふ仁の安宅ふ居り。義礼たゞしき路を通りあふべし。是ゑ誠ふ福徳の来る道と志るべし。又孟子のいとく。不仁者ハ與ふ言べからず。其危きふ安

んじて其苗ひを利とせ其亡ぶる所以を楽しむとあり
此心ハ不仁無智の人とハ與み咄しも出来がさし。其危
ふきあんぎの所をちらぜして。やへりて安心するあい所
と思ひ。又大苗のある損をる所をぞちらぜして。へつて
利徳あるあい所と思ひ。又おごり遊山名聞ハ皆國家を
ゆぶるの道なるみ。かへりて是を楽ちと思ふ。又不仁者ハ私欲
邪欲み走りて本心の徳を失ひ。不仁不義をして。終みハ滅
亡み及ぶとあり吾人共み無智邪見みハまるる。その危き
み安んじて其災ひを利と為。其亡ぶる所以をちらぜと
いたをてハ一言もあし大閑口

三篇上終